

トラブルの実例と傾向

無料通話アプリは、とても便利な反面、不適切な使い方により、子ども同士のトラブルが発生したり、性犯罪等の被害に遭ったりすることがあります。

実例をもとに、どのようなトラブルがあるのか説明していきます。

被害者 女子中学生2名

概要 容疑者は無料通話アプリを通じ、自分を15歳と偽って2人と知り合い、「(事前に受け取った)画像を悪用する」などと脅して携帯電話からわいせつな画像を送らせた。



相手を信用して個人情報や性的な画像などを一度送ってしまうと、その後、危険を感じて送ることを拒否した時に「あの画像と名前をネットにばら撒くぞ」などと態度を一変させてさらに過激な画像を送らせたり、会うことを強要されるケースがあります。

被害者 女子中学生(当時中学2年生)

概要 容疑者は無料通話アプリで知り合った当時中学2年だった女子生徒が18歳未満と知りながら、現金4万円を支払ってみだらな行為を行った。女子生徒の携帯電話に残っていた書き込みの内容から容疑者の犯行が発覚した。



無料通話アプリでは援助交際を持ち掛けてくる男性も少なくはありません。最初から援助交際を持ち掛けるのではなく、「写真のモデルになってほしい」「服は脱がなくていいから」と誘い出して、みだらな行為に及ぶケースもあります。

被害者 男子中学生(当時中学2年生)

概要 当時2年生の男子生徒4人が同じ部活動の2年生男子生徒1人に対し、部室内で計3回、生徒の練習着を脱がせた上、押さえつけたり、背中を殴ったりするなどの行為を繰り返し、そのうち2回をスマートフォンの動画機能で撮影し、無料通話アプリに投稿していた。投稿された動画には「やめて」という被害生徒の声や加害生徒の笑い声などが記録されていた。



複数名でチャットをすることができるグループトークという機能では、画像や動画を共有することもできます。普通の動画であれば問題ないのですが、こうした暴行やいじめの動画、万引きや器物破損を自慢する動画、盗撮動画などを撮影・共有し、問題になったケースがあります。

トラブルに遭わないためには？

こうしたトラブルに遭わないためには、「自分の写真を送らない」「知らない人には直接会わない」「人を傷つけることはしない」などといった、ネット上だけではなく、日常生活を送る上でも当たり前のルールを徹底する必要があります。